

南山  
宗教文化研究所

NANZAN  
INSTITUTE  
FOR  
RELIGION  
AND  
CULTURE

もくじ

はじめに 2

背景

日本とその宗教 3

研究のアプローチ 4

南山大学 5

研究所

目的・目標 7

活動 8

設備 16

スタッフと組織 17

# 南山宗教文化研究所

所長 教授 ジェームズ・ハイジック

昭和50年に発足した南山宗教文化研究所の目的は、まず第一に、学術レベルでは、広く世界の宗教と文化一般に関する学際的な研究、とりわけ、日本を中心とした東洋の宗教と文化に関する研究であり、第二に、実践レベルでは、キリスト教と仏教や神道などの諸宗教との対話と相互理解の促進である。今日、コンピューターを核とする科学技術の革新が著しい中で、世俗化の進行とともに、注目すべき宗教回帰現象が世界的に起こりつつある。また、とりわけ東西対立が流動化しつつあるが、それぞれの民族の独自の文化や宗教が力を得てきている。本研究所は、こうした世界の状況の中でいまだに文化的に十分に理解されているとはいいがたい日本の諸宗教や思想や研究をひろく海外に知らしめる努力を重ねるとともに、この分野で日本と海外との橋渡しの役割を果たす国際的な研究機関となることを目指している。ついては、昭和56年より季刊「日本宗教研究誌」（英文）を編集発行するとともに、諸宗教間対話を目的とする「南山シンポジウム」の記録の出版（和文）、日本を中心とする東洋の宗教や思想の研究や紹介を目的とする「南山宗教文化研究叢書」（英文）、「南山アジア宗教研究叢書」（英文）を刊行し、とりわけ海外で高い評価を得ている。また、昭和57年以来、東アジアのさまざまなキリスト教系の諸宗教研究所の総合会議を開催するとともに、その機関誌を発行している。

専任研究所員



James W. HEISIG

Paul L. SWANSON

Jan VAN BRAGT

渡辺 学

兼任研究所員



石脇慶總

Jan SWYNGEDOUW

土田友章

## 背景

宗教と文化の伝統的な絆が世界中で問われている昨今、さまざまな宗教的な価値が、今日の社会にとっていかなる意味をもっているかという問題の追求は、緊急の課題となっている。そして、過去のさまざまな支配的な文化に根ざしたこれらの価値や理想は、今日の世界において次第に収斂してきているように思われるので、十分に国際的でエキューメンカルで学際的な手段を用いてその問題を取り扱うことが、特定の伝統の個人のユニークさと豊かさに敬意を払うために、同じく重要になってきている。

南山宗教文化研究所は、こうした背景を前提としているが、また、アジアの中でもとりわけ日本において研究を行なうという具体的な状況に規定されている。本研究所は、キリスト教という志向性を持ち、世界共同体に対する責任を自覚して、人類の霊的な危機や世界の合一過程を脅かす危機の解消に寄与することを目的としている。

## 日本とその宗教

日本は、古くから宗教的な多元論の遺産に恵まれ、東西文化の十字路に位置づけられてきたので、宗教と文化のさまざまな関係の研究や、近代化や他の社会現象が文化や宗教の変化の過程に対して与えている衝撃の研究には、とりわけ理想的な環境にある。こうした理由から、本研究所は、日本の伝統を培ったり日本をして現代世界で占めている立場にいたらしめたりしたさまざまな要因に注意を向けて、その問題を深く理解しようと務めている。

さらに、その立場が必然的により大きな責任をとるものでもあるかぎり、日本はまた、伝統的な良心の限界を超えて、その豊かな伝統に値する立場を、より大きな世界において引き受けなければならない。このように、いかにしてキリスト教が、より大きな人類共同体において日本の諸宗教に対する関心を促進する触媒として活躍したり、その自己理解において欠けているものを満たしたりするのに、日本が持っているさまざまな

伝統的な宗教的価値から学ぶことができるかということに焦点を当てて、本研究所は、特別な仕方、とりわけ、アジアのさまざまな大宗教に反映されているような仕方、アジア人の意識の諸問題に対して、門戸を開放することに必然的に関心を寄せている。

## 研究のアプローチ

### 国際性

こうした問題に対する研究は、あらゆる意味で国際的なアプローチを必要とする。このことは、研究所に集まった学者の共同体が、その国際性を、文化、言語、人種の背景の点で反映しなければならないことを意味する。そのことはまた、彼らの研究が個人的に行なわれるにしろ共同で行なわれるにしろ、その研究方向が、世界共同体の枠組みの中で持続的に研究をつづけることによって、各国の国益の限界を超えることが必要である。

### エキュメニカルであること

同じ理由から、研究所は、もっとも充実した意味でエキュメニカルであることをめざしており、そのため、われわ

れの時代のキリスト教の自己理解にとってきわめて重要な要素となってきた「対話の精神」にあずかることをもめざしている。したがって、研究所は、さまざまな信仰をもった学者がその共同体に入っていることを歓迎する。さらに、それは、世界各国で盛んに行なわれているように、日本でも盛んになってきている、「さまざまな信仰の間の対話 interfaith dialogue」や、エキュメニカルな性質の他の共同作業への参加を追求する。そして、そのことは、宗教が、地球上でさまざまな現われ方をしていっているとはいうものの、すべての文化の基盤となる価値をなしており、人類の合一のための根底をなしているという強い確信に基づいている。

### 学際性

最後に、「宗教」と「文化」という広いカテゴリーに当てはまる豊かな視野や伝統は、いかなる単一の学科の地平にも限定されえない学問的なアプローチを要求する。研究所の学際的な特徴は、さまざまな分野——哲学、宗教学、社会学、心理学、言語学、人類

学など一々の学者が寄り集まっていることだけに反映されているのではなく、さらに重要なことには、諸宗教を研究するに当たっていかなる研究方法も絶対ではないと考えをもって宗教と文化の現象に新たな光を当てるようとしているという共通の営みに反映し

ている

これらのことすべてにおいて、南山宗教文化研究所は、次の世代に誇りをもって文化的遺産の一部として手渡すことのできるという、未来に対する希望をもたらす、人類の理解を培うことを目的としている。



## 南山大学

南山大学は、中部日本にカトリックの教育の土台を築こうという、神言修道会という外国宣教会の努力によって生まれた。初代学長を務めたアロイジウス・パツヘ神父によって1949年に基礎が置かれて、当初1学部で学生数が460名であったものが5学部になり、学部と大学院を合わせて学生

数5,000名を超えるまでに成長した。

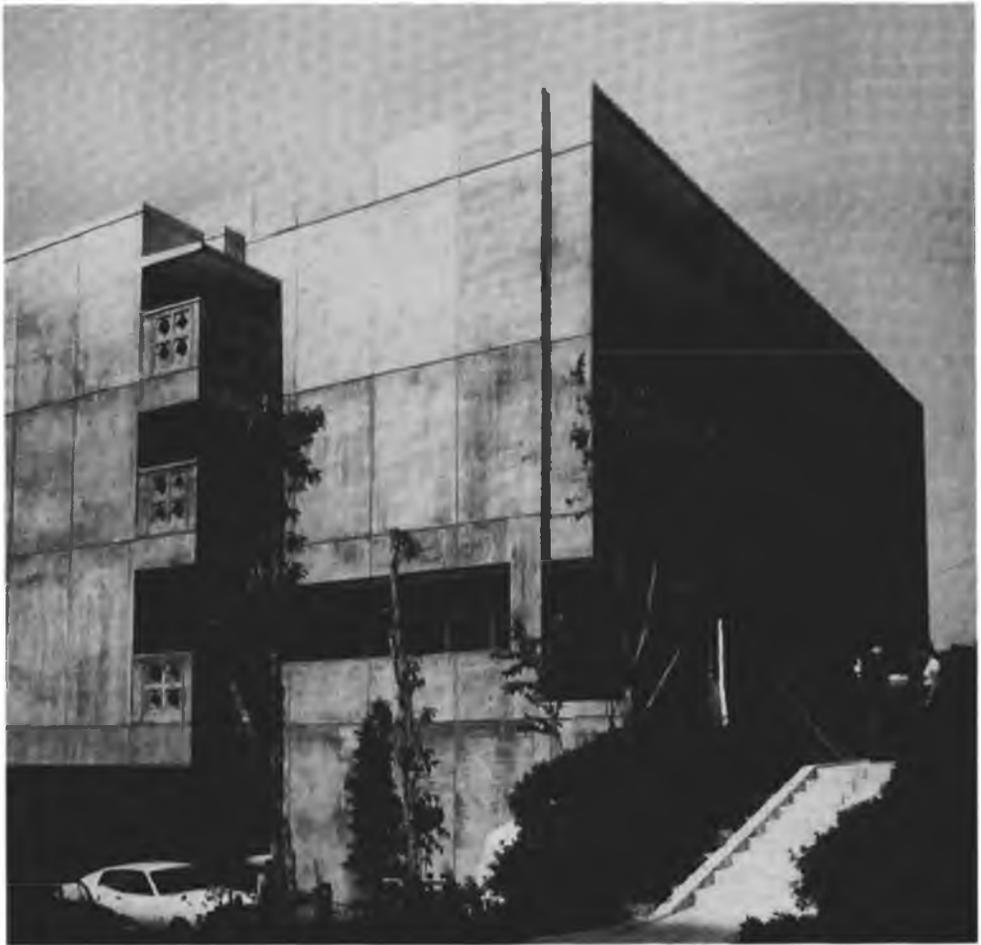
創立以来30年あまりを通じて、南山大学は、学問的な優秀さを追求してきただけではなく、キリスト教ヒューマンイズムの究極的な諸価値と日本の伝統とが、真にカトリック的な共同体の形成に寄与するのに役立ちうるような環境の創造にも力を尽くしてきた。

大学は、人口約200万を有する大都市の名古屋市一一まわ

りの産業地域を含めれば、さらに400万の人口が加算される一に位置している。キャンパスは、四方八方に街を見おろすことのできるなだらかな丘陵の上であり、都市の雑踏や喧噪から解放された、波

打つ木々が広がっている土地に囲まれている。

南山宗教文化研究所は当初、公式には1975年に南山学園の一部として設立されたが、1979年の四月に南山大学に編入された。



南山宗教文化研究所

# 研究所

## 目的・目標

研究所の目的は、その公式の規程として以下の三つの項目において明らかにされている。

1. 宗教・文化一般特に日本を中心とする東洋の宗教・文化に関する学際的研究
2. キリスト教と諸宗教との相互理解の促進
3. 研究者の養成

これらの全般的な目的は、研究所の具体的な目標において少なくとも部分的に具体化されてきたが、それは短期のプロジェクトから長期の事業まで広範囲に渡っている。もちろん、かなりの程度までは、これらの特定の目標は、研究所に独自の技能や関心をもたらしたさまざまな学者に影響されている。研究所が努力を傾けてきている持続的な目標の中には、以下のようなものがある。

- \* 最新の専門的な文献の収集

- \* 日本や外国にある他の宗教研究所との協力
- \* 英語の出版物によって西洋に東洋の宗教思想を紹介すること
- \* 日本の諸宗教に対する理解を深めてもらうために、優秀な外国の学者、とりわけ、東洋の学者を招待すること
- \* 日本で行なわれる宗教間対話に積極的に協力すること
- \* 可能な場合には、こうした対話に西洋の代表を参加させること
- \* 日本の学者のためのシンポジウムを提供したり、その記録の出版を助成したりすること
- \* 学際的な研究や宗教間対話の研究にたずさわるように一年にわたる奨学金の支給によって若いアジアの学者を教育すること
- \* 日本におけるキリスト教神学の土着的な基盤の探求や、キリスト教会の土着化過程にかかわる問題に関して、南山大学神学部と協力すること
- \* 研究所の関心と合致する関心をもった学者が臨時



第2シンポジウム (1980)

に独立して研究するための  
基盤や設備を提供する  
こと

- \* 宗教に関する会議やセミナーやワークショップのための名古屋地方におけるフォーラムの役目を果たすこと
- \* 東西の修道生活の伝統の間の対話や霊的交流を促進すること

## 活動

研究所の活動は、以上に述べた目的や目標に直接かかわりのあるものであり、その事業に今日までたずさわっている人々の具体的な成果にほかならない。

## シンポジウム

シンポジウムは、研究所の設立以来定期的に組織されており、宗教間の出会いの一面を深く追求したり、また、かなりの長さにわたって追求するために、高名な日本の学者を招いて行なわれてきている。最初の三つのシンポジウムは継続して行なわれている仏教とキリスト教との出会いのさまざまな側面——「宗教体験と言葉」(1976)、「宗教における大衆とエリート」(1978)、「絶対無と神」(1980)——に焦点を当てていたが、第四回のシンポジウムは、「宗教における普遍と特殊」というテーマでキリスト教と

神道との出会いによって新たな地盤を開拓した。さらに、第五回は「天台仏教とキリスト教」、第六回は「浄土教とキリスト教」というテーマで仏教とキリスト教の出会いが追求された。三日間にわたるシンポジウムの過程の中で、参加者は研究所の賓客としてキャンパスに招かれ、また、公式のセッションは外部のオブザーバーに公開されている。

### 懇話会

懇話会は、研究所の目的とかわる研究にたずさわっている人々を講師として、年に数回、研究所で開催されている。約半数が日本国内から招かれ、半数が海外から招かれているが、懇話会は、二三十名の参加者からなるグループがわれわれの時代の偉大な思想や感動的な理念と直接に接することができるように、リラックスした雰囲気の中で行なわれている。

### 靈性交流

靈性交流のプログラムは、東西の修道生活の伝統が互いに身近に接することを目的として、1979年の9月に、東京の

上智大学東洋宗教研究所、京都の花園大学禅文化研究所、西ドイツのボンの東アジア研究所との協力で実施されている。そのプロジェクトは、日本とヨーロッパにおいて広く報じられ、二十数名の日本人の仏僧と尼僧からなる選り抜きのグループが、ヨーロッパ最古のカトリックの修道院のいくつかに入って、現地で実際の日々の生活をわかちあうことが試みられた。このことにつづいて、禅の書の展示や、一連の会議や対話のセッションがヨーロッパの数カ所で開催されて、禅の靈性と芸術表現との関係が明らかにされた。つづいて、1983年10月には、ヨーロッパの修道僧が同じように日本の禅堂を訪れて、両者の交流が深められた。

### 継続的な議論

継続的な議論は、研究所の活動の通常の活動の一部となっているが、以下のようなものを含んでいる。

- \* 研究所員や研究員などのために開かれる、選ばれた論題についての2週間おきのセミナー

- \* 真宗の秘教的伝統におけ

る「阿弥陀経」に関して  
月に一度開かれる、宗教  
や宗派を越えたセミナー  
(1988年まで行われた)

\* 2カ月に一回に開かれる、  
清沢満之・曾我量深の系  
統に属す真宗の代表者と  
の宗教間対話のセッション

### 日本における 専門の研究所との協力

日本における専門の研究所  
との協力は、研究所のメンバ  
ーに日本全国を通じて広く行  
われている宗教間対話に活発  
に参加する機会を与えている。  
たとえば「現代社会における  
宗教の役割研究会」(COR-  
MOS)、「宗教と平和世界協  
議会」(WCRP)、日本宗教学  
会、東西宗教交流学会、宗教  
間対話の研究のためのエキュ  
メニカル・グループ  
(EGSID)などのような組織  
に共同発起人として参加して



いる。(最後に挙げたEGSID  
は、同様な精神に基づいた日  
本の研究所の連帯であり、東  
京の上智大学東洋宗教研究所、  
オリエンズ宗教研究所、京都  
のNCC(日本キリスト教協  
議会)宗教研究所が参加して  
いる。)

### インター=レリジオ

インター=レリジオは、東  
アジアにおける宗教間の出会  
いのためのキリスト教組織の  
ネットワークであり、八カ国  
(日本、韓国、台湾、香港、  
インドネシア、マレーシア、  
タイ国、フィリピン)16のセン  
ターの代表によって組織され、  
南山宗教文化研究所のイニシ  
アティブで、まず最初に1982  
年3月にマニラで大会が開か  
れた。第二回大会は1983年の  
秋に香港で開催され、その後、  
1985年に名古屋と北京、1990  
年にソウルで開かれた。イン  
ター=レリジオの目的は、東  
アジアで同様な課題に取り組  
んでいる人々との協力関係  
を促進することにある。現在  
の初期的な段階では、本研  
究所がこのネットワークのため  
の事務局を務め、プレティン  
を発行している。



## 出版物

南山宗教文化研究所は現在までに以下のような出版物を発行している。

### **NANZAN STUDIES IN RELIGION AND CULTURE**

*James W. Heisig, General Editor*

Heinrich Dumoulin, *Zen Buddhism: A History. Vol. 1, India and China*. Trans. J. Heisig and Paul Knitter (New York: Macmillan, 1988)

Heinrich Dumoulin, *Zen Buddhism: A History. Vol. 2, Japan*. Trans. J. Heisig and Paul Knitter (New York: Macmillan, 1989)

Frederick Franck, ed., *The Buddha Eye: An Anthology of the Kyoto School* (New York: Crossroad, 1982)

Frederick Franck, *To Be Human Against All Odds*, with a Foreword by James W. Heisig (Berkeley: Asian Humanities Press, 1991)

Winston L. King, *Death Was His Kōan: The Samurai-Zen of Suzuki Shōsan*, with a Foreword by Nakamura Hajime (Berkeley: Asian Humanities Press, 1986)

Robert E. Morrell, *Early Kamakura Buddhism: A Minority Report* (Berkeley: Asian Humanities Press, 1987)

Nagao Gadjin, *The Foundational Standpoint of Mādhyamika Philosophy*. Trans. John Keenan (New York: SUNY, 1989)

(長尾雅人「中観と唯識」 岩波書店 1978 の部分訳)

Nishitani Keiji, *Religion and Nothingness*. Trans. Jan Van Bragt with an Introduction by Winston L. King (Berkeley: University of California Press, 1985)

(西谷啓治「宗教とは何か」 創文社 1961 の英訳)

Nishitani Keiji, *Nishida Kitarō*. Trans. Yamamoto Seisaku and J. Heisig, with an Introduction by D. S. Clarke (Berkeley: University of California Press, 1991)

(西谷啓治「西田幾多郎——その人と思想」  
筑摩書房 1985 の英訳)

Nishitani Keiji, *The Self-Overcoming of Nihilism*. Trans. G. Parkes and S. Aihara (New York: SUNY, 1990)

(西谷啓治「ニヒリズム」 弘文堂 1949 の英訳)

Nishida Kitarō, *Intuition and Reflection in Self-Consciousness*. Trans. Valdo Viglielmo et al., with an Introduction by Joseph O'Leary (New York: SUNY, 1987)

(西田幾多郎「自覚に於ける直観と反省」  
岩波書店 1917 の英訳)

Paul Swanson, *Foundations of T'ien-T'ai Philosophy: The Flowering of the Two Truths Theory in Chinese Buddhism* (Berkeley: Asian Humanities Press, 1989)

Takeuchi Yoshinori, *The Heart of Buddhism: In Search of the Timeless Spirit of Primitive Buddhism*. Trans. with Introduction J. Heisig and a Foreword by Hans Kūng (New York: Crossroad, 1983)

(武内義範「縁起思想」などの論文集の英訳)

Tanabe Hajime, *Philosophy as Metanoetics*. Trans. Takeuchi Yoshinori et al., with an Introduction by J. Heisig (Berkeley: University of California Press, 1987)

(田辺元「懺悔道としての哲学」 岩波書店 1946 の英訳)



Taitetsu Unno, ed., *The Religious Philosophy of Nishitani Keiji: Encounter with Emptiness* (Berkeley: Asian Humanities Press, 1990)

Taitetsu Unno and James Heisig, ed., *The Religious Philosophy of Tanabe Hajime: The Metanoetic Imperative* (Berkeley: Asian Humanities Press, 1990)

Hans Waldenfels, *Absolute Nothingness: Foundations for a Buddhist-Christian Dialogue*. Trans. J. Heisig (New York: Paulist Press, 1980)

なお、このシリーズと平行して

**NANZAN STUDIES IN ASIAN RELIGIONS**

Paul L. Swanson, General Editor

Vol. 1 Jan Nattier, *Once Upon a Future Time: Studies in a Buddhist Prophecy of Decline* (Berkeley: Asian Humanities Press, 1991).

Vol. 2 David Reid, *New Wine: The Cultural Shaping of Japanese Christianity* (Berkeley: Asian Humanities Press, 1991).

Vol. 3 Minor and Ann Rogers, *Rennyō: The Second Founder of Shin Buddhism* (Berkeley: Asian Humanities Press, 1991).



**南山シンポジウムシリーズ：南山宗教文化研究所編**

「宗教体験と言葉——仏教とキリスト教との対話」 紀伊國屋書店  
1978

「絶対無と神——西田・田辺の伝統とキリスト教」 春秋社 1981

「神道とキリスト教——宗教における普遍と特殊」 春秋社 1984

「密教とキリスト教——歴史宗教と民俗宗教」 春秋社 1986

「天台仏教とキリスト教——宗教における理と行」 春秋社 1988

「浄土教とキリスト教——宗教における救いと自覚」 春秋社 1990

## 定期刊行物

*Japanese Journal of Religious Studies*, Paul L. Swanson, editor

*Annual Bulletin of the Nanzan Institute for Religion and Culture*, Jan Van Bragt, editor

『南山宗教文化研究所研究所報』 渡辺 学編

*Inter-Religio*, James W. Heisig, editor

## その他の出版物

研究所のメンバーが著したり編集したり邦訳したりした著作。

James W. HEISIG. 『ユングの宗教心理学——神の像をめぐる』  
瀬瀬康兵・渡辺 学訳 春秋社 1985, 1987

\_\_\_\_\_. *Imago Dei: A Study of C. G. Jung's Psychology of Religion*. Lewisburg: Bucknell University Press, 1979.

\_\_\_\_\_. *El cuento detrás del cuento: Un ensayo sobre psique y mito*. Buenos Aires: Ediciones Guadalupe, 1976.

\_\_\_\_\_. ed., *Without Staff or Sandals*. St. Augustin, 1980.

\_\_\_\_\_. (共) 『米大陸における日本文化の普及方法の研究』 東京、総合研究開発機構、1981

\_\_\_\_\_. trans., Murakami Hyōei et al., *Japanese Culture in America: An Investigation into Methods of its Dissemination*. Tokyo: Japan Culture Institute, 1982.

\_\_\_\_\_. ed. with M. Kiyota et al., *Japanese Buddhism: Its Tradition, New Religions, and Interaction with Christianity*. Tokyo: Buddhist Books International, 1987.

\_\_\_\_\_. *Remembering the Kanji I*. Tokyo: Japan Publications Trading Co., 1991 (3rd edition, 9th impression).

\_\_\_\_\_. *Remembering the Kanji II*. Tokyo: Japan Publications Trading Co., 1991 (5th impression).

\_\_\_\_\_. *Kanji Study Cards*. Tokyo: Japan Publications Trading Co., 1991 (3rd impression).

\_\_\_\_\_. *Remembering the Kanji: The Program!* Tokyo: Japan Publications Trading Co., 1991.

\_\_\_\_\_. *Remembering the Hiragana*. Tokyo: Japan Publications Trading Co., 1990 (4th impression).

\_\_\_\_\_. with H. Morsbach and K. Kurebayashi, *Remembering the Katakana*. Tokyo: Japan Publications Trading Co., 1990 (2nd impression).

- 石脇慶總著『愛を求める神——神の恵みの構造』 エンデルレ書店 1989
- \_\_\_\_\_. 『教皇の平和メッセージ』 中央出版者 1986
- Paul L. SWANSON. trans. with James Heisig. Akizuki Ryōmin, *New Mahāyāna: Buddhism for a Post-Modern World*. Berkeley: Asian Humanities Press, 1990.
- \_\_\_\_\_. trans. with P. Griffiths et al. *The Realm of Awakening: A Translation and Study of the Tenth Chapter of Asaṅga's "Maḥāyānasaṅgraha."* Oxford: Oxford University Press, 1989.
- \_\_\_\_\_. with Yūko Swanson, *If You Teach Me Japanese, I'll Teach You English*. Tokyo: Japan Publications Trading Co., 1991 (2nd impression).
- Jan SWYNGEDOUW. 『「和」と「分」の構造——国際化に向かう宗教』  
日本キリスト教団出版局 1981
- \_\_\_\_\_. 『日本人との旅』 日本キリスト教団出版局 1983
- \_\_\_\_\_. 『菊と刀と十字架と』 デイヴィッド・リード、松本 滋、  
鈴木範久共著 日本キリスト教団出版局
- Jan VAN BRAGT. *Toward a Theology of Religions*. Tokyo: Oriens Institute, 1984.
- \_\_\_\_\_. with TERAYAMA Katsujō, *Zen und die Künste: Tuschkmalerei und Pinselschrift und Japan*. Köln, 1979.
- 渡辺 学著『ユングにおける心と体験世界』 春秋社 1991
- \_\_\_\_\_. (共訳) C. G. ユング著『自我と無意識』 松代洋一・  
渡辺 学 共訳 思索社 1984, 1991 (7刷)
- \_\_\_\_\_. (共訳) ジェームズ・ハイジック著『ユングの宗教心理学  
——神の像をめぐる』 瀨瀬 康兵・渡辺 学 共訳 春秋  
社 1985, 1987 (2刷)
- \_\_\_\_\_. (共訳) ボーレン著『タオ心理学——ユングの共時性と自  
己性』湯浅泰雄監訳 渡辺学、阿内正弘、白濱好明共訳 春秋  
社 1987, 1991 (5刷)
- \_\_\_\_\_. (訳) アイラ・プロゴフ著『心理学の死と再生』春秋社  
1990



パウルス ハイム

## 設備

研究所は南山大学のキャンパスの西北の角にある。建物は、3階建てになっていて、16の比較的大きな個人研究室と、いくつかの大きな会議室兼セミナー室があり、また、全部で15万冊収容可能な書庫が地下1階を含めて4階にわたってある。南山宗教文化研究所は現在設備を人類学研究所と共有している。

図書に関しては研究所の目的とプログラムと関連した研究を専門に集めており、また、特別な閲覧室・参考図書室に300点を越える定期刊行物が陳列されている。研究所のメンバーは、大学の中央図書館をも簡単に利用でき、さらに、キャンパスに隣接しているカトリック神学院にある神学関係の図書のかなりのコレクションを利用することができる。

1979年1月にパウルスハイムが研究所のメンバーが利用できる住居として開設された。ハイムには6名の常住者と5名の客員を収容することができる。研究所から徒歩約5分のところにあるため、パウルスハイムは、家族形態の日常生活のできるリラックスした環境の中で東西の宗教と文化の接触に対してもうひとつの機会を提供しているのである。

## スタッフと組織

南山宗教文化研究所は、人類学研究所と社会倫理研究所とともに、各研究所の所長や大学評議委員会の承認を得て学長によって委嘱される若干の者からなる、南山大学研究所総合委員会によって管理運営が審議される。総合委員会は、一般的な方針を定めたり、新たなメンバーを承認したり、長期的な展望に立ったフォーラムを提供したりする。総合委員会の決定は、大学の評議委員会によって最終的に承認される。

評議員と呼ばれる選ばれたグループの一部は、研究所設立の初期の段階に指導的な役割を果たし、また、ときとして相談の役目を果たしたが、それ以外に、研究所には、メンバーには5つのカテゴリーがある。

1. 第一種研究所員——研究所の目的達成のために長期的に研究所の活動に従事する者。専任研究所員。
2. 第二種研究所員——一定期間研究所の活動に協力するために南山大学専任教員から任命された者。兼任研究所員。
3. 客員研究所員——優れた専門の経験と学識によって一定期間研究所の研究活動に寄与する者。
4. 研究員——自らの研究分野を深める目的で1年間にわたって採用される若手の研究者。
5. 研究補助員——特定の研究プロジェクトのために研究所と協力する非常勤の研究者。

## 研究所のメンバー

### 第一種研究所員

ヤン・ヴァン ブラフト

キリスト教と仏教の哲学（ルーヴァン大学、京都大学）

ジェームズ・ハイジック

（所長）

宗教哲学・宗教心理学（ケンブリッジ大学）

ポール・スワンソン

仏教学・宗教学（ウィスコンシン大学、東京大学）

渡 辺 学

宗教哲学・宗教心理学（筑波大学、シカゴ大学）

## 第二種研究所員

ヤン・スインゲドー

宗教社会学（グレゴリアン大学、東京大学）

石脇慶總

神学、神道の神学（フリブール大学、グレゴリアン大学）

土田友章

宗教学、中国仏教（東京大学、ハーバード大学）

コピー・エディター

エドモンド・スクリプチャック

（ロヨラ大学、上智大学）

日本児童文学・日本語学



## 歴代の研究所のメンバー

### 研究所員

1974-76 Heinrich DUMOULIN

1975-76 青山 玄

1975- Jan VAN BRAGT

Jan SWYNGEDOUW

1975-76 門脇佳吉

長坂源一郎

1979-80 長倉久子

1980- James W. HEISIG

1989- 渡辺 学

1990- Paul L. SWANSON



### 研究員

1976-77 瀬瀬康兵 日本神学

1977-78 成河峰雄 曹洞禅の歴史

小田淑子 スーフィズム

1978-80 小林一成 仏教的な民族宗教

1979-80 日野紹運 ヒンドゥー教における仏教の影響

- 1981-82 赤松明彦 インドにおける仏教論理学  
 1982-84 井桁 碧 宗教心理学  
 氣多雅子 現象学・宗教学  
 1985-86 土田友章 宗教学、中国仏教  
 1986-88 川上光代 観音信仰  
 1988-90 木村登次 宗教社会学  
 1990-91 保呂篤彦 宗教哲学  
 淵上恭子 宗教社会学



#### 非常勤研究員

- 1979-80 佐藤三千雄  
 1984-85 田辺和子  
 1985-90 土田友章 仏教学、生命倫理学  
 石脇慶總 諸宗教の神学・宗教学  
 1990 Paula ARAI

#### 客員研究員

- 1976-90 Mathias EDER  
 1979 Ansgar PAUS, *University of Salzburg*  
 1979-80 Gilbert HARDING, *University of Dallas*  
 John BRINKMAN, *Fordham University*  
 1980 John KEAN, *Howard University, Washington, DC*  
 Hans WALDENFELS, *University of Bonn*  
 1981 Frederick FRANCK, *Pacem in Terris, New York*  
 Jan MCDANIEL, *Hendrix College, Arkansas*  
 1982 Gilbert L. JOHNSTON, *Eckerd College, Florida*  
 1982-83 Wilhelm MÜLLER, *St. Augustin, Germany*  
 1983 William CENKNER, *Catholic University, Washington, DC*  
 1983-84 季完裁 LEE Wan-jae, *Yeungnam University, Daegu*  
 1984 Jean-Noel ROBERT, *Centre National des Recherches  
 Scientifiques, Paris*  
 Karel DOBBELAERE, *University of Leuven, Belgium*  
 Whalen W. LAI, *University of California, Davis*  
 Gilbert L. JOHNSTON, *Eckerd College, Florida*

- 1985 Richard E. WENTZ, University of Arizona, Tempe
- 1985-86 Joseph O'LEARY, Maynooth, Ireland  
 Winston L. KING, Vanderbilt University  
 Lawrence E. SULLIVAN, University of Chicago  
 南基英 NAM Key-young, Kyung Hee University, Seoul
- 1986 Gerald B. COOKE, Bucknell University
- 1987-88 Steve ODIN, University of Hawaii, Honolulu  
 Prachar HUTANUWATRA, Santi Pracha Dhamma Institute,  
 Bangkok
- 1988 Frank PODGORSKI, Seton Hall University, New Jersey
- 1988-89 吉原和男 前・名古屋商科大学助教授
- 1989 Rosana TOSITRAKUL, Santi Pracha Dhamma Institute, Bangkok  
 Eugeen ROOSENS, University of Leuven, Belgium
- 1990-91 都 珧淳 TOH Kwang-soon, Hanyang University, Seoul  
 吉 熙星 KEEL Hee-sung, Sogang University, Seoul
- 1991 Roger CORLESS, Duke University, North Carolina
- 1991-92 Jamie HUBBARD, Smith College, Massachusetts

コピー・エディター

- 1981-84 Michael KELSEY
- 1984-86 John P. KEENAN
- 1986-90 Paul L. SWANSON
- 1990- Edmund SKRZYPCZAK

